

Topics

学科長座談会

「純心らしさ」 パワーアップ!!

2018年4月より長崎純心大学は3学科体制へ。
学科長に就任する教授陣が純心について語ります。



「純心らしさ」とは

他の大学にはない「らしさ」を出していかないといいけない時代ですが、「純心らしさ」をどのようにお考えですか。

長野 「いやなことは私がよろこんで（学園標語）」「知恵の道を歩み 人と世界に奉仕する（大学の motto）」が一番分かり易いと思いますが、もう少し具体的に言うと、人と人がきちんと向き合う教育、あるいは人と人が支え合うことが大事だと思います

新しい学科（文化コミュニケーション学科）は定員が増えますが、教員も増えますので教員一人当たりの学生数も少数のままです。人と人がきちんと顔を、教員と学生が、あるいは学生同士が教員同士が顔を向き合えることが、「純心らしさ」につながるのではないかと思います。



文化コミュニケーション学科長
長野 秀樹

熊野 「らしさ」というときに一番の思いは、私が大学一年の夏休みに母校へ帰った際、高校の先生から日体生らしくなったと言われたことです。そして、純心大学に勤務するようになって、純心生らしさとは何か、純心大学の学生が夏休みに母校に帰って、純心生らしくなったと言われた学生がいるかと考えると、どの程度私たちがその「らしさ」を作り上げているのかを疑問に思いますし、大変なことだと思います。

見た目から純心生かどうかわかる点が3つあって、一つはリュックを背負っていること。通学に便利で、通学の距離がある程度長く荷物が多いことでリュックの利用率が高い。それから、学内に長い坂があるので、平たい靴を履いている割合が高いこと。そしてちょっと厚着をしていること。見た目は地理的条件で作る「らしさ」だと思います。

通学が不便な地理的条件はありますが、逆にそのことがプラスになる可能性もあります。短大時代は他大学にくらべて図書館の利用率と貸出件数が高いとよく言われていました。今はと言えば、車通学ができて非

常に便利になっていきます。大村や諫早、東長崎方面から来る学生にとっては、車を利用できることで立地条件としては比較的良好ではないかと感じます。ある意味、他の長崎周辺にある大学の中で、プラスに作用する地理的条件もあると思っています。

「純心らしさ」というのは、大規模な大学ではないからこそ、共に何かできることだという気がします。共に悩み、共に考え、共に行動できる大学だと思います。一言でいえば、「共にいる」ということが一つのキーワードだと思います。



地域包括支援学科長
熊野 晃三

石田 児童保育学科が開設された平成15年に純心大学にきました。十数年の間、関わりの中で思うのは、家庭で大切に育まれた学生が多いということだと思います。そこで「純心らしさ」ということを言葉にする、「一途さ」、「真剣さ」、「真面目さ」、「思いやり」、それから「優しさ」で表現できると思います。

学科での「純心らしさ」

学科長として学科の教育を現場で司っていく中で、「純心らしさ」をどのように工夫し、作り上げていきますか。



こども教育保育学科長
石田 憲一

長野 文化コミュニケーション学科は、英語情報学科と比較文化学科と一緒に新設できる学科ですが、今までの各学科の良さは引き継いでいきたいと思っています。「純心らしさ」というのは結局今までの純心がずっと培ってきたもので、一人一人の学生や教員がそれぞれ向き合えるという良さは、新しい学科の中でもぜひ活かしていきたいです。

例えば英語情報学科は英語やコンピュータを中心として、教員と学生が1対1、あるいは教員の方が多い1対多というような状況で指導が行われてきました。その良さはそのまま活かしたいと思っています。

比較文化学科の場合は、個性豊かな学生と個性豊かな教員が今まで係わり合ってきました。お互いの学科の良さを活かしながら、学科の学生数が増えることをプラスにとらえる教育体制を作りたいと思います。英語情報学科と比較文化学科では似ているようでも個性があります。その個性やお互いの良さをうまく引き出していければと思います。

熊野 地域包括支援学科の場合、将来的に専門職となる学生を養成していく使命がありますので、専門職に繋がっていく知識と技術をいかに身に付けさせるかを考えていかなければならないと思います。その意味においては、純心生のよさ、「ひたむきさ」という特徴を、精一杯活かして、専門的な分野に進む知識と技術を身に付けていって欲しいと思っています。

その一方で、一緒になる人間心理学科では、全員が専門職に進んでいくわけではありませんが、人間心理学科で学んだ、人と人との対応能力を将来進む現場でいかしていくという意味においては、非常に専門的な知識をもって社会に巣立つ

ていくわけで、これまでの地域包括支援学科の福祉的な専門職というところとそう大きく変わった視点ではないと考えています。

石田 熊野先生がおっしゃられたように、「ひたむきさ」というところは、児童保育学科の学生の気質としてもあると思います。それは保育、教育に携わる専門職を目指す人たちにとって大切な気質なので、大事にしたいと思っています。

この十年間の教育界の動きをみると、幼児教育の大事さが国の様々なところで認識されてきたと思います。そういう面ではやっとな時代が純心についてきたところがあると思います。「純心らしさ」である、「一途さ」とか「真剣さ」といった資



質の一方で、「遠慮しがち」あるいは「自信が持てない」ところも見受けられます。いろいろな素地はあるし、いいものがあるにもかかわらず、引込み思案で堂々と前に出てこれないところを学生に感じるので、いろいろ場を与えて、その中で自分自身が何であるかを発見して伸ばす機会を作りたいと思います。そして、「粘り強さ」や「世の中で生きていく力」を伸ばしてあげたらよいと思います。

学科長としての心境

2018年度から人文学部3学科体制となりパワーアップしますが、今のご心境を一言お願いします。

長野 パワーアップということであれば、英語情報学科と比較文化学科の相乗効果として何かを生み出した。一つは、留学体制の再構築、学内へ外国から留学生を受け入れることを大きく目標として掲げ、外国人あるいは世界の文化と交流できるようなところを作ること、受け入れ体制をと考えています。もう一つは、留学する学生に対する積極的な支援体制を作りたいと



思います。

あとは、教員サイドでは、学科内でお互いの研究を刺激し合えればよいと思います。大学開学以来、段々といろんなことが安定してきてしまってます。教員もお互いの研究を刺激し合える体制や雰囲気を作れたらいいかなと思います。

熊野 パワーアップという意味では、地域包括支援学科は人間心理学と一緒にあって新たな地域包括支援学科を作り上げていくことになりません。平成6年の長崎純心大学の開学時には現代福祉学科の中に心理学のコースがありました。そこから人間心理学として独立し、再び一緒に活動し始めるという意味において、人間心理学が地域包括支援学科に取り込まれるわけではなく、互いに融合することが一番大きなポイントだと思います。

学科の名前の中で、心理学の影が薄くなってしまっていると、非常にもったいない話なので、パワーアップという意味においては、心理学の存在感をできるだけ発揮しながら、学科運営をしていかなければいけないと思います。これは学生募集に



も直結する話ですが、人間心理学の実績を活かすことを念頭に置きながらパワーアップしたいと思っています。

地域包括支援学科は他学科とは違い男女の学生が在籍している特徴があります。現在、全学約1200人の学生数のうち、男子学生が20人程度です。この人数をもう少し増やしてもよいと思います。他学科に男子学生を広げるとい意味ではなく、今回、人間心理学と一緒にいる中で、心理学に志を持つ男子学生をもっと積極的に受け入れていくことができるのではないかとまだまだ長崎純心大学に男子学生が在籍しているということさえご存知でない方がいらっしやいます。もっ

と積極的に具体的な広報活動しながらパワーアップを図ることが必要です。そして心理学と融合できることで、福祉系の分野においてもパワーアップが図れることを非常に期待したいところではあります。

石田 一言でいうと、今の心境は「温故知新」という感じですね。「古きを温め新しきを知る」というよりはむしろ、「古きを温め新しきを創る」という気持ちです。

平成30年度より学科名が「こども教育保育学科」となり、「教育」が前面に出る形になります。また、平成31年度の入学生から新しいカリキュラムになることが予定されています。児童保育学科の14年間の歩みの中で、小学校教員になった数は134人です。その中の正規採用が半数以上の77人です。このような実績を対外的にアピールするという側面がやはり「こども教育保育学科」という名称にはあります。また、「教育」「保育」という言葉を並べて置いたというところに価値があると思っています。この十年間、日本の中でも幼稚園、保育園、それから

小学校の繋がりとといったことが強調されてきましたし、近年、特に幼児教育にとても光が当てられてきました。これまで八十年以上にわたる純心の保育者養成の伝統に加えて、学科での14年間の小学校養成の実績を加えて、より新しいものを創っていきたいと思います。

明治以来、小学校は小学校、幼稚園は幼稚園、保育所は保育所というようにバラバラに設立され発展してきた過程があります。本来成長するのは一人の間で幼児期、児童期、青年期と成長していきます。その中で幼小連携の在り方とか、幼小の成長の観点がどのように伸びていくのかということとはとても大事な研究領域です。そういったことを大切にしていきたいと思っています。それから、いよいよ小学校でも外国語教育が教科として導入されてきますので、やはり世界に目を向けた保育者、それから小学校教諭の養成というものを考えていかなければと思います。

2018年2月16日
司会・英語情報学科長

畠山 均

長崎純心大学 次期学部長の決定について 2018年4月就任

学長による推薦に基づき理事長が任命し、次期学部長は潮谷有二教授に決定しました。



潮谷 有二 教授

現職：人文学部 学部長補佐
医療・福祉連携センター長
人文学部地域包括支援学科 教授
大学院人間文化研究科 教授
現代福祉研究所 所長
専門分野：社会福祉

主な社会活動：

社会福祉推進事業評価委員会委員 [厚生労働省 社会・援護局] (2011年～)
長崎県地域包括ケアシステム構築支援委員会委員
長崎市地域包括ケア推進協議会委員
長崎市地域包括支援センター運営協議会委員 (2014年～)